

## 6月議会報告

# イオン大垣南ショッピングセンター 排水問題大丈夫？

西濃最大の売り場面積をもつイオン大垣南ショッピングセンターが4月にオープンしましたが、その近辺に住む南部住民の方から、水田が埋め立てられたが排水は大丈夫かといった不安の声が寄せられました。そこで11日の本会議で、イオン大垣南ショッピングセンターの排水問題について質問しました。

市議会議員 笹田 トヨ子

## イオン排水問題質問の要点

- ①イオン大垣の排水施設は、平成16年の23号台風規模の降雨量に対応できるか。
- ②イオンの排水施設（調整池）の容量は今まで水田が果たしていた貯留機能の水準を満たしているか。
- ③イオン大垣の周囲の市道と一緒に造られた側溝はどこが管理し側溝の水はどこに排出されるのか。
- ④イオン大垣の西側や南側の水田も埋め立てられ駐車場などになっているが、排水対策はどうなっているのか。

## イオンの調整池は 集中豪雨に対応できるか？ 建設部長、調査を約束

建設部長の答弁は、「県の開発基準に沿って時間雨量80ミリを想定して造られているので23号台風の降雨量に対応している」というものでした。しかし、23号台風は総雨量286ミリ、ピーク時の2時間降雨量は117ミリでした。しかも最大時間雨量は63

ミリを記録し、このような雨は「滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなる」という「非常に激しい雨」の降り方です。このような激しい雨の場合、イオン大垣の敷地内にある側溝では対応できず市道側に流れ出します。現にイオン大垣の駐車場から市道に出るところの側溝は網のふたになっていて、イオンから流れ出る雨水を受け止めるように造られていました。私は「大雨の時、一度現場に向いて、雨水の流れ方を調べて欲しい」と要求し、建設部長も「現場に行って確認する」と約束しました。

## 規制のない水田埋め立ての排水はどうするか？

イオン大垣の西側や南側の水田が埋め立てられ駐車場などになっています。ところが、この土地はイオン所有ではなく、開発許可申請のいらない土地ということで、排水対策など規制の対象にはなっていません。現在南側の駐車場は砂利で埋め立てられ、イオンの駐車場になっています。調整池はなく排水対策が必要です。答弁では「今後の検討課題」ということでした。大垣市は昔から内水被害で悩まされ輪中が発達した

## 開発基準に沿った調整池でも 水田の保水力にはかなわない

イオンの敷地面積は109,528㎡で、もとは大部分が水田でした。水田はあぜに囲まれていることから、雨水を貯留し、時間をかけて徐々に下流に流したり、8割の水は地下に浸透させることが出来ます。ところが、これを埋め立ててコンクリートなどで固めてしまうと100%雨水を外に流す事になります。水田は道路から30~40センチ深いところにあり、イオンの調整池の3~4倍の貯留能力があると推定できます。水田をつぶし、開発基準通りの調整池を造っても、水田の保水力にはおよびません。



南側の駐車場と水田、落差は40cm程

地域です。そして今では機械排水に頼らなければなりません。ですから、どれだけ小さな水田でも埋め立てれば、今まで水田が貯留してきた分の調整池が必要ではないでしょうか。この問題はイオン大垣のある外野地域だけの問題ではなく、今後開発が進むと予想される地域、例えば東海環状線沿線の地域でも起きてくるのではないのでしょうか。大垣市独自の規制が必要と考えます。